

つるみ支援だより



鶴見養護学校キャラクター
鶴の妖精さん(つるみよん)

夏休みも終わり、2学期が始まりました。
さて、今回の支援だよりの内容は次の通りです。

- ✿夏季公開研修会の報告
 - ✿学校へ行こう週間のお知らせ
 - ✿ちょっとブレイク 心理職のつぶやき
- です。

✿夏季公開研修会の報告✿

7月29日の夏季公開研修会では、障害児通所支援事業所キッズライン管理者の山本崇博先生に『行動を「みる」～家庭、学校、地域で子どもの成長をはぐくみ、かかわる9つのコツ』をテーマにお話いただきました。

9つのトピックに分けて、子どものことをよりよくわかる秘訣！それには「行動のみかた」にある！と山本先生。専門用語を省き、だれでもわかりやすいように表現しながら伝えてくださいました。

1 行動は役立つと増える 役立たない、もしくは影響がないと減る、と決まっている！	2 手がかり⇒行動⇒結果 この3つの枠で行動は整理！ 行動の結果、役に立てば行動は増え、役立たなければ減る。直後の結果がポイント！	3 この子の学びのスタイルは？ たとえば、音声言語でわかるのか、絵カードでわかるのか、ジェスチャー、書き言葉？
4 素敵な行動を増やしたり レベルアップしたいときは？ 少しだけ上の目標と、最終目標であるゴールをみすえられるよう、細かく段階を設けましょう！	5 指示ははっきりとわかりやすく 大人からの働きかけは、短く、簡潔に、はっきりと。	6 わかりやすい結果を示そう できたらすぐ褒めましょう！子どもが喜ぶことを一人一人見つけてそれで褒めよう！
7 課題ができないときは？ 手助けを効果的に行う 手を取る、手本を見せる、指さし、声をかける、教材のなかにヒントを入れておく。	8 困った行動の働きを知ろう 注目を得る、要求が叶う、嫌なものを回避できる、感覚的な刺激が得られる。	9 困った行動は、 よい行動に置き換えよう 怒ることは一時的な効果だけで持続しない。

いかがでしょうか？
人はだれでも、生きていくうえで困難にいきあたるもの。
行動を分析することが、大きなヒントになりそうです。



✿学校へ行こう週間のお知らせ✿

学校へ行こう週間を10月7日(月)から10月11日(金)に実施します。

学校へ行こう週間は保護者や地域の方々等に実際に学校を見学していただき、学校の教育活動等を身近に体感し、学校に対する理解を一層深めていただくことをねらいにしています。

本校は10月7日(月)・10日(木)・11日(金)、分教室は8日(火)・9日(水)に行います。
後日、改めて、詳細をプリントします。また、ホームページにもお知らせを掲載予定です。



❀ちょっとブレイク 心理職のつばやき❀

夏休み前、巡回相談で伺ったとある小学校の校長室でのこと。お茶を出していただき、これから始まる相談がどんな風に進んでいくのか、思いを巡らせながら、お部屋にあるいろいろなものに目をやりました。壁には歴代の校長先生の写真、亀のはく製、素敵な絵画。卒業生のオリンピック出場記念品に、置時計、他にも校長室らしいもの。その一番手前に、ぽつんと流木の置物が。記念品にしては素朴すぎて、他のものとのギャップに思わずお尋ねすると、校長先生が「これ、スプーンなんですよ。」と。

変わった木の置物だと思って私が見ていたものの正体は、持つところが流木で出来たカレースプーンだったので。校長先生が手に取ってくださるまで、木からスプーンが出ていることに気づきませんでした。

人間の脳は、慣れ親しんだ情報を信じやすく、時に真実を誤ってとらえることがあります。目では見えているはずなのに、それが何かは分からない。見えているのにそれが無いものと誤ってしまうことすらあるのです。毎日同じように過ごしてすら、日常生活は様々な刺激と変化に満ちています。変化に富んだ環境はストレスを生みやすく、不安や不快な感情と隣り合わせです。少しでも「自分が知っている世界」として世の中をとらえ、「なんだかよく分からない世界」から心身の健康を守ろうとするところの動きが誰にもあります。多すぎる情報をそぎ落とし、時には自分で自分をだますこともあります。

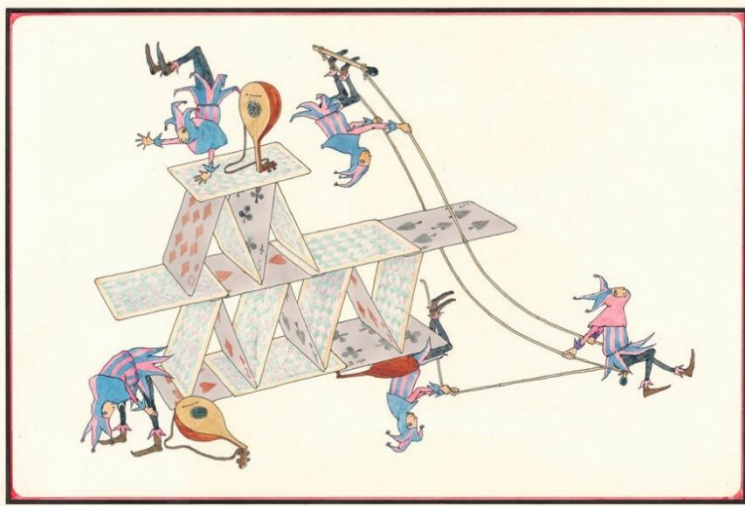
初めて伺った小学校で、思えば私はとても緊張していたのです。校長室にカレースプーンなんか飾ってあるわけがない、素敵な置物に違いないと思えば、目に映ったスプーンの映像は、自分の考えとつじつまが合うように、ちゃんと消えてなくなるのです。

こんな風に、物のとらえ方や感じ方、その解釈の仕方は、その人がその人にとって最適な状態でいられるように、こころが少しずつ調整し、日々変化しています。

夏休みに入ったばかりの頃は、学校に毎日行かないのは「いつもと違う」生活でも、終わる頃には、それが当たり前になっていたかと思えます。始業式を迎え、久しぶりの元の生活は、昨日までの「いつも通り」とは違う刺激に満ちた日々なはずで。

何がその人にとっての当たり前で、心地よいことは何か、嫌いだと感じることは何か。

そんなこころの装置を感じながら、学校に毎日行く生活がまた「いつも通り」になるまで、調子が整うのを待ちたいものです。



安野光雅「ふしぎな絵」より